INTERVIEW

新潟県柏崎市
新規就農者インタビュー



株式会社　田村農産
眞貝　奈那さん

柏崎市出身。
株式会社田村農産に入社し、
農業の道へ。

好きを仕事に農業へ

眞貝さんは、幼い頃、祖父母の畑を手伝いながら花を育てた経験から、「好きなことを仕事にしたい。」と考え、接客業から農業へ転職しました。条件面に加え、米作りだけでなく幅広く農業に携われることに魅力を感じ、株式会社田村農産への入社を決めました。

現在はチームの一員として、苗積みや耕起などを担当しています。代掻きの難しさに奮闘しながらも、大好きな園芸全般に携われる毎日を楽しんでいます。

育てる喜び、収穫の実感

「野菜もお米も、爪の先ほどの小さな種が大きく育っていく。その過程を見るのが何よりの魅力です」と語る眞貝さん。作物がすくすくと成長し、収穫の時を迎える瞬間を楽しみに日々の農作業に励んでいます。

キャベツや白菜、ブロッコリーなどは重みがあり、手摘みして軽トラックに積み込む作業はなかなかの重労働です。それでも、苦労の先にある収穫の喜びは何物にも代えがたい瞬間だと言います。

夏の猛暑や冬の厳寒の中での屋外作業は気候が体にこたえることも多く、忍耐力が求められる仕事です。しかし、自然と向き合いながら小さな種を自分の手で立派に育て上げ、収穫する充実感こそが、眞貝さんの日々の大きな原動力となっています。

野菜に対する意識の変化

農業を始めてから、眞貝さんはスーパーの野菜コーナーで思わず足を止めることが増えました。以前は気にも留めなかった野菜の大きさ、価格、規格、品質を、自然と意識して見るようになったそうです。

「このサイズでこの値段なのか」と驚く一方で、日々の収穫や運搬の大変さを身をもって知っているからこそ、「これだけの手間がかかっているのに、こんなに安くていいのだろうか」と感じることも少なくありません。現場を経験したからこそ、店頭に並ぶ野菜の見方は大きく変わりました。一つひとつの大きさや形、そして価格の背景にある、生産者たちの膨大な手間や工夫を日々実感しています。

価格だけで判断せず、野菜が店頭に並ぶまでの生産者の苦労や思いにも目を向けて、おいしく味わってほしい。眞貝さんは、そう願いながら日々の仕事に取り組んでいます。



株式会社田村農産

田村農産では、コシヒカリや葉月みのりなど9品種のお米を栽培しています。

〒945-0114
新潟県柏崎市藤井1104

新潟県柏崎市農林水産課
2026.11